

# 兜町の御意見番

## 平野憲一の相場 表街道／裏街道

第592回



**平野憲一氏プロフィール**  
1970年立花証券入社、2006年執行役を経て、2014年7月独立。現在、ケイ・アセット代表。株一筋50年のマーケットアナリストとして鋭い分析に定評がある。日経CNBCコメント委員、日本証券アナリスト協会検定会員。

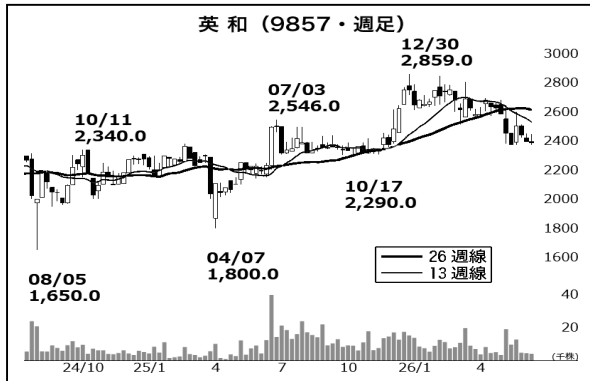
1987年にNTTが上場してから平成バブルが沸騰しました。世界は今スベースXの上場でその時を迎えようとしています。平成バブルの主役は、金融・不動産・建設・商社でした。英和（9857・S）も計

測・制御機器中心の技術専門商社ですが、大きく出遅れています。連結事業ウェイトは工業用計測制御機器47、環境計測・分析機器8、測定・検査機器4、産業機械41となっていますが、国土強靱（きょうじん）化に必要な特殊車両の品ぞろえも豊富です。

2026年3月期の連結業績は、売上高488億4600万円（前期比3・6%増）、営業利益29億7500万円（同6・8%増）、経常利益30億4400万円（同6・7%増）、当期純利益20億7000万円（同5・9%増）と順調で、年間配当も16円増配の96円となりました。

商社人気は大手5社を中

# 英和 商社物色波及のタイミングに



心に展開していますが、足元の相場でも妙味があるのは、その外側にいる同社だと思えます。理由は明確で、商社セクターの資金循環が最終局面に入り、中堅・専門商社へ波及する典型的なタイミングに差し掛かっているためです。強みは、地味だが極めて堅い事業構造にあります。

FA機器、産業機械、電子部品など、国内製造業の設備投資に直結する商材を扱い、景気敏感でありなが

ら安定した需要を持っています。特に24年以降の半導体・自動車・インフラ向けの設備投資の再加速の中で、同社の扱う商材はその中心に位置します。大手商社のような資源価格の変動リスクが小さく、実需に根差した安定成長型の商社として評価されるべき企業だと思います。

27年3月期の予想を保守的に出したせいか、株価面の出遅れが際立ちます。大手商社の株価がここ2年で大きく伸びた一方、同社は業績が堅調にもかかわらず、緩やかな右肩上がりにとどまっています。配当利回り4%、PERは8・17倍、PBRも0・8倍と依然として割安で、財務体質も極めて健全です。自己資本比率も高く、商社株に求められる「キャッシュ創出力」「株主還元」「安定性」の3点を全て満たしており、長期投資家が安心して資金を入られる銘柄だと思えます。市場全体がバリュート帰の流れにある中で、割安×実需×安定配当という三拍子がそろった英和は、機関投資家の買い対象としても十分に魅力的だと思えます。

※毎週水曜日に掲載します。